

令和 6 年度

鬼北町教育委員会
点検・評価報告書

令和 7 年 5 月

鬼北町教育委員会

事務事業評価一覧表

判定(総合評価) 5段階評価とする。

- 1 事業の運営管理ともに良好であり、極めて順調であった。
- 2 おおよそ優れた成果を挙げた、概ね順調であった。
- 3 一応の成果を挙げたが更に努力が必要である。
- 4 殆ど成果がなかった。
- 5 評価なし

評価の今後の方向性

「廃止・終了」「休止」「継続」「見直し」「拡大」のいずれかとする。

鬼北町教育委員会点検・評価委員会

令和6年度

基本 施策	個別事業施策名	事業の目的	事業の内容	総合評価		
				判定	今後の 方向性	判定理由・課題・ 今後の対応等
教職員の指導力と資質の向上	教育振興会事業、教育連絡協議会事業	小中学校教職員の指導力・資質の向上及び小中高校との緊密な連携を図る。	【教育振興会事業】 小中学校教職員による主任委員会及び専門部会において、自主研修を実施した。 北宇和高校馬術部の活動及び選手の強化育成や競技用具の充実を図った。 【教育連絡協議会事業】 小中高校教職員による専門委員会において自主研修を実施した。	2	継続	今後も町内教職員による主任会、専門部会及び研修会等を通じて、学校間の連携を密にすると共に、県の教育機関とも連携を図り、質の高い教育を引き続き目指していたきたい。
確かな学力の定着と体力の向上	学力向上推進事業、体育振興事業、文化振興事業、本屋へ行くプロジェクト	町教育力向上推進委員会を中核として、町内全小中学校一体となって、学力向上プランの策定、各種学力調査の分析・考察をもとにした授業改善、ICT活用教育の推進、読書活動の推進、家庭との連携を図る。また、体力アップ推進計画に基づき、児童生徒のスポーツに対する興味・関心を高め、体力の向上とスポーツへの参加意識の高揚を図る。さらに、読書に親しんだり、文化・芸術面の取組を推進したりして、豊かな心の醸成を図る。	【学力向上推進事業】 児童生徒の学力向上を図るため、教育力向上推進委員会を設置し、全国学力・学習状況調査等の分析・考察等を行った。また、教育委員会指定ICT活用教育研究推進校に好藤小を指定して、研修を実施した。 【体育振興事業】 小学校の代表児童が、愛媛県小学校陸上運動記録会へ参加した。 中学校の部活動において、愛媛県中学校総合体育大会、四国中学校総合体育大会、全国中学校バドミントン大会、愛媛県中学校新人体育大会、愛媛県中学駅伝競走大会に参加した。 【文化振興事業】 吹奏楽部において、全日本吹奏楽コンクール愛媛県大会、RNBこども音楽コンクール、全日本アンサンブルコンテスト愛媛県大会南予地区予選に参加した。 【本屋へ行くプロジェクト】 読書への興味・関心の高揚を目指して、町内の小・中学生を対象として学校の図書室に置きたい本の選定を児童生徒自らが行う事業を実施した。	2	継続	教育力向上推進委員会を中心に町内学校全体で調査・研究が進められている。GIGAスクール端末を十分に活用し、わかりやすい授業に取り組んでいただきたい。 部活動においては体育部、文化部ともに各大会で好成績を収めるなど、体力向上及び参加意識の高揚が図られた。しかし部員数が少なくなってきたこと懸念される。また、子どもたちの全体的な体力の衰えがあるのではないかと心配している。子ども全体の体力向上に努めてほしい。 本屋へ行くプロジェクトの事業により、児童生徒の読書への興味・関心が高まっており、今後も継続願いたい。

基本 施策	個別事業施策名	事業の目的	事業の内容	総合評価		
				判定	今後の 方向性	判定理由・課題・ 今後の対応等
豊かな人間 性の形成	ふるさといきいき連 携学習事業、ライフ キャリア教育事業	様々な体験活動を通して、豊かな心とコミュニケーション能力の育成、自己肯定感の向上を目指すとともに、地域の産業や自然・歴史・文化の学びや、様々な人との交流を通してふるさとを愛し、誇る心の醸成を図る。	町内小・中学校と北宇和高校や地域住民が連携し、米・野菜・花の栽培等の自然体験活動、食品加工体験学習、地域の歴史や伝統文化に触れる活動、職場体験を行うキャリア教育等に取り組んだ。 【ふるさといきいき連携学習事業（各小・中学校と北宇和高校の連携学習）】 ・野菜班：①夏野菜苗定植、②夏野菜の収穫、③秋冬野菜苗定植 ・草花班：①夏花苗定植、②秋花苗定植 ・食品班：①和菓子作り、②乳酸飲料の製造、③メロンパンの製造 ・作物班：①サツマイモ苗定植、②サツマイモの収穫、③田植え体験、④稲刈り体験 ・収穫祭：高校生が調理したカレーライス試食 【ライフキャリア教育】 日吉小・中学校で実施する郷土学や広見中学校で実施する地域コミュニケーション科のほか、他の小学校では、地域住民等の協力を受けつつ、校区の歴史や伝統文化を学ぶ総合的な学習の時間を展開した。また、中学校では町内各事業所で職場体験学習を行ったほか、地域で働く青年との交流会（くるまざ♡ミーティング）や、愛媛大学学生との交流会（ドリームアップミーティング）を行い、将来への希望や展望を広げた。	1	継続	事業の実施においては、県立北宇和高校や地域住民と連携を深めることによって、自然・歴史・文化に関心を持ち、ものを大切にする心の育成が図られている。 令和6年度より広見中学校が教育課程特例校に認可され、地域コミュニケーション科が新設されたことにより、コミュニケーションスキルの向上や地域と連携した教育活動の推進が図られた。
特色ある学校づくりの 推進	コミュニティ・スクール（学校運営協議会）推進事業、小中一貫教育推進事業	全小中学校で、地域や保護者の学校運営への参画を図る仕組みを取り入れて、地域とともにある学校づくりを目指すとともに、日吉地区では地域性を生かし、義務教育9年間を通した指導方針により、小中学校が連携して教育の質を高める。	町内全小中学校において、地域とともにある学校を目指すため、各種事業に取り組み、地域全体で学校運営に協力すると共に、地域の教育力の向上を図った。 【コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）推進事業】 保護者や地域住民等の声を生かした、地域とともにある学校づくりを目指し、全ての小中学校が学校運営協議会制度を取り入れてコミュニティ・スクールとしての運営を行った。学校運営協議会では学校運営方針の説明・承認のほか、学校が推進する伝統文化教育や防災教育の分野等で熟議も行い、地域と学校が一体となった教育が構築されつつある。 【小中一貫教育推進事業】 教育課程特例校制度を活用し、義務教育9年間の一貫したカリキュラムによる「郷土学」を实践、また、小中学校教員相互の「乗り入れ授業」や小・中合同行事等も実践して、児童生徒の学力向上と個性・能力の伸長を図った。	1	継続	学校運営協議会の活動により、地域全体での学校づくりに努められている。 今後も家庭・地域と連携・協働し時代を担う人材の育成に期待する。 また、日吉地区での特徴のある一貫教育については郷土学を実践するなど円滑に実施されており、日吉小・中学校の教諭がお互いを行き来しながら素晴らしい活動に取り組んでいる。

令和6年度

基本 施策	個別事業施策名	事業の目的	事業の内容	総合評価		
				判定	今後の 方向性	判定理由・課題・ 今後の対応等
児童・生徒 指導の徹底 と健全育成	スクールソーシャル ワーカー活用事業、 スクールカウンセ ラー活用事業、不登 校対策事業	いじめ・不登校・ 虐待などの児童生徒 に係る問題の未然防 止・早期発見・早期 対応・早期解決に努 め、町内の児童生徒 の健全育成を図る。	【スクールソーシャルワーカー活用事業】 好藤小・愛治小・三島小・泉小・近永小において、児童、教職員に対 する教育相談活動を実施した。 【スクールカウンセラー活用事業】 広見中と日吉中を拠点校、町内全小学校を構成校として、児童生徒、 教職員及び保護者に対する教育相談活動を実施した。 【不登校対策事業】 不登校児童生徒への個別指導や相談に応じて、宇和島市こども支援教 室「わかたけ」に児童生徒が通えるよう保護者への周知と体制の維持に 努めた。	2	継続	スクールソーシャル ワーカーやスクールカウ ンセラーの活用により心 のケアができるなど一定 の成果を挙げられた。 今後も事業を継続し、 いじめのない学校づくり をお願いしたい。
特別支援教 育等の推進	学校教育活動支援員 配置事業、特別支援 教育就学支援事業、 教育相談事業	障がい等を有する 児童生徒が豊かな学 校生活を送れるよう な体制づくりを行う とともに、教職員の 負担軽減を図る。	【学校教育活動支援員配置事業】 障がい等を有する児童生徒が、豊かな学校生活を送れるよう教育活動 支援員を配置した。（好藤小、愛治小、三島小、泉小、近永小、日吉 小、広見中） 【特別支援教育就学支援事業】 障がい等を有する児童生徒が、豊かな学校生活を送れるよう学用品等 の就学援助を実施した。 【教育相談事業】 特別な支援を必要とする子どもと保護者を対象として、養育や教育に 係る相談支援を行い、就学前から中学校卒業後までを見通した途切れの ない支援の充実を図った。	1	継続	教育活動支援員を配置 することにより特別な支 援を必要とする児童生徒 が安心して学校生活が送 れるとともに、教職員の 負担軽減にもつながって いると考えられる。 今後も関係機関が連携 した取組を継続されたい。

令和6年度

基本 施策	個別事業施策名	事業の目的	事業の内容	総合評価		
				判定	今後の 方向性	判定理由・課題・ 今後の対応等
社会の変化 に対応する 教育の推進	国際交流事業、人材 育成ふるさと研修事 業	異文化との交流に より、国際理解を深 め、国際社会を生き 抜く人間を育てる。	【国際交流事業】 小中学校において、外国語指導助手3名による語学指導及び国際理解活動を実施した。また、毎週水曜日に一般町民を対象とした英会話教室を開催した。 【人材育成ふるさと研修事業】 4年ぶりに町内の中学生を対象とした海外研修事業を実施し、4名の生徒（広見中学校3名、日吉中学校1名）が参加した。8月10日から18日までの9日間、オーストラリアのシドニーでホームステイを行い、語学学校で語学を学んだ。語学学校では様々な国の同世代の方々と学び、交流することで、異文化に対する意識の育成や独立心の育成、一定レベルの語学スキルの向上を図ることができた。	2	継続	外国語指導助手が3名体制で運用され、学校における語学指導が充実し、異文化との交流で国際感覚をもった児童生徒の育成が図られており、継続を希望する。 また、海外研修事業については4年ぶりに実施することができ、生徒たちの様々な興味関心に応えることができた。引き続き海外研修の実施を検討されたい。
学校給食を 通した食育 の推進	特別栽培米購入事 業、食育推進事業	児童生徒に安全で 美味しい地元産減農 薬米コシヒカリや農 林産物を使用した給 食を提供し、食につ いて考える機会を与 える。	【特別栽培米購入事業】 学校給食に年間約6.2tの地元産減農薬米コシヒカリを使用し、米飯給食（年間123日）を提供した。 【食育推進事業】 学校給食の調理材料に地元産の農林産物を活用した。 【給食費負担軽減事業】 学校給食を安定的に提供し、児童生徒の保護者の負担を軽減した。	1	継続	地元の減農薬米や農林産物を使用した安全安心な食材の活用を通して食育を推進していくとともに、今後も子どもたちに地域を愛する気持ちを育んでももらいたい。 給食費負担軽減事業により安全でおいしい学校給食を安定的に供給し、また児童・生徒保護者からの給食費を値上げを抑えることで経済負担も軽減されていることから、引き続き事業を継続されたい。

令和6年度

基本 施策	個別事業施策名	事業の目的	事業の内容	総合評価		
				判定	今後の 方向性	判定理由・課題・ 今後の対応等
安全・安心な学校づくり	学校施設等整備事業、通学路安全推進事業、スクールガード・リーダー活用事業、学校防災教育実践モデル地域研究事業	安全・安心な学校教育施設、設備や防災体制の整備充実に努める。	【学校施設等整備事業】 ○日吉小学校大棟屋根修繕工事（4月17日発生災害復旧事業） ○愛治小学校電気設備修繕工事 ○近永小学校プール塗装工事 【通学路安全推進事業】 通学路の安全に関する地域の実態を把握し、危険箇所への対応を迅速にかつ継続的に行うため、関係機関等が連携し、9月12日に通学路合同点検を実施した。 【スクールガード・リーダー活用事業】 スクールガード・リーダーを2名委嘱して各学校を定期的に巡回し、警備のポイントや改善すべき点等を指導・評価して学校安全体制の整備を図った。 【学校防災教育実践モデル地域研究事業】 県の委託事業として、日吉小学校をモデル地域とし、地域や関係機関との連携を促進することにより、地域全体にその成果を普及・促進するとともに、断続的で発展的な学校安全に係る取組を地域が一体となって進めることができる体制を構築した。	2	継続	日吉小学校において防災教育事業の取組を行ったが、今後は日吉だけでなく全校防災の位置付けをしてもらいたい。 各学校において、今後も教育活動に支障をきたさず児童生徒が安心して学校生活が過ごせるよう計画的な修繕をお願いしたい。 スクールガード・リーダー活用事業では各学校の巡回を随時行うことで学校安全体制の整備が図られており、今後も事業を継続されたい。
教育諸条件の整備	準要保護児童・生徒就学援助事業、過疎対策遠距離通学補助事業、自転車・ヘルメット購入補助事業、高等学校遠距離通学費補助事業、大学生等生活応援給付金事業	経済的に困窮している家庭及び遠距離通学者の円滑な就学を図る。	【準要保護児童・生徒就学援助事業】 生活保護世帯に準ずる程度に困窮している家庭を対象に、学用品費や給食費等を助成した。 【過疎対策遠距離通学補助事業】 通学距離が3km以上の小学生に対し、バス定期券購入費を補助した。 【自転車・ヘルメット購入事業】 通学距離が2km以上の新入学中学生に対し、自転車及びヘルメット購入費を補助した。 【高等学校遠距離通学費補助事業】 愛治地区・三島地区・日吉地区から高等学校等へ遠距離通学する生徒に対し、通学費を補助した。	1	継続	すべての子どもたちが安心して学校に通学できるよう、今後も引き続き事業を継続されたい。 現在、物価が高騰しており、自転車やヘルメット等の購入単価も高騰しているため、各家庭の負担の軽減のためにも助成金額の見直しを図られたい。

令和6年度

基本 施策	個別事業施策名	事業の目的	事 業 の 内 容	総合評価		
				判定	今後の 方向性	判定理由・課題・ 今後の対応等
人権教育の 推進	えひめいじめSTOP!デ イ	いじめの原因や、 具体例、対処法など について県下一斉の オンライン授業で意 見交換を行うこと で、お互いの個性を 尊重し、誰もが安心 して生活できるいじ めのない楽しい学校 づくりを目指す。	【えひめいじめSTOP!デイ】 愛媛県教育委員会が主催するオンラインを活用した「えひめいじめ STOP!デイ」に町内全小学校の6年生、中学校の1年生が参加し、愛媛県内 の様々な学校の児童、生徒のいじめに対する多様な考え方に触れ、ライ ブ配信授業を通じて他校と意見交換を行うことなどにより、いじめの原 因やその対処法などについて学んだ。	2	継続	来年度も事業を継続 し、いじめ撲滅に向けて の意識をもった児童・生 徒の育成をお願いした い。 現在町ではタブレット を持ち帰って家庭学習を している。また携帯電話 所持の低年齢化が進んで いる。使用に関して保護 者や学校に見えないとこ ろがあるため学校の指導 だけでなく保護者への意 識付けも必要ではない か。
心豊かで充 実した人生 を送るため の生涯学習 の推進	生涯学習社会づくり 事業	住民個々のニーズ に応える学習機会の 提供とその内容の充 実を図るとともに、 社会教育団体の活動 支援を維持する。	住民一人ひとりの個性や能力に応じて、自由に学ぶことができ、生き がいを感じる生涯学習社会を構築するため、様々な住民の学習ニーズに 応える学習機会を提供するとともに、地域社会の連携を図る婦人会、青 年団及び日吉一希を起こす会並びに青少年の健全育成のため、活動の充 実を図るPTA及び愛護班に対し予算補助を実施し、活動を支援した。 今年度は、PTA連合会では単位PTAでの活動・交流を図ることができた が、2月8日に予定していた「人権を考える集い・町PTA研究大会」につい ては、雪の影響により中止となった。また、愛護班では昨年度に引き続 き「わんぱくたちのクリスマス会」と題し、全小学校に参加の募集を行 い、クリスマスの装飾製作・展示を実施、子どもたちに素敵なクリスマ スイベントを提供できた。婦人会及び青年団では、各公民館と連携を図 り青少年の健全育成や地域活性化の活動を行った。	2	継続	社会教育団体の新規加 入者の伸び悩みなどによ り団体が小規模になりつ つある。また、役員のな り手不足や負担増など今 後の活動も厳しい状況に あるが、充実した活動が できるよう継続支援をお 願いしたい。

令和6年度

基本 施策	個別事業施策名	事業の目的	事業の内容	総合評価		
				判定	今後の 方向性	判定理由・課題・ 今後の対応等
心豊かで充実した人生を送るための生涯学習の推進	でちこんか事業（夏の陣：【四万十・源流広見川】川上り駅伝）	日本一の清流・四万十川の支流である広見川でイベントを開催し、清流の町をアピールすることにより、自然に親しみを持ち、ひいては自然を守る心を養い、心豊かなふるさとづくりを推進する。	開催日：令和6年8月4日（日）AM10:00スタート ※一般の部 参加者：駅伝一般の部11チーム、駅伝女子の部3チーム、鉄人の部7名、鬼ZZの部12名 【入賞者】 駅伝一般の部：（優勝）大平軍団A （準優勝）大洲マーメイド倶楽部（3位）鬼北体協とゆかいな仲間たち 駅伝女子の部：（優勝）OTENBA♡ （準優勝）NPOオレンジクイーン（3位）お転婆★ 鉄人の部：（優勝）芝隆裕 （準優勝）那須雅人 （3位）大竹宏和 鬼ZZの部※4年生：（優勝）大平力郎 （準優勝）杉本綾世 （3位）中平大惺 鬼ZZの部※5年生：（優勝）清家稜大 （準優勝）山岡由芽 （3位）兵頭鈴音 鬼ZZの部※6年生：（優勝）大塚陽向	2	継続	5年ぶりに開催することができ、町内外から多くの参加があり大変盛り上がった。引き続き地域の方々と協力を図り事業を継続されたい。 川上り駅伝が成川で始まった経緯も引き継いでもらいたい。
心豊かで充実した人生を送るための生涯学習の推進	でちこんか事業（秋の陣）	生涯学習の視点に立って、それぞれの人々がいつでもどこでも積極的に学習に参加し、心豊かで充実した人生を送ることができる生涯学習社会の創造に努める。あわせて、鬼北町のアピールと町民が自分の町に誇りが持てるような地域づくりを進める。	今年の「でちこんか」については、「鬼北町合併20周年記念事業」の冠称を掲げ、合併20周年に向けての機運醸成を図るとともに、この記念すべき節目の年度に、イベントを通じて町の魅力を発信し鬼北町のさらなる発展を目指すものとして開催した。 10月12日（土）の「前夜祭～邦楽ライブin鬼北」では、「太鼓集団魁」をはじめ、ゲストに「太鼓集団天邪鬼」（東京都）、「天邪鬼保存会」（東京都）、和楽器奏者「悠久」（松山市）のほか、演歌歌手の「徳永ゆうき」氏を迎え、盛大に開催することができた。来場者も非常に多く、来場者及び出演団体からは、肯定的な意見がほとんどであった。 10月13日（日）の「でちこんか2024」では、保育所園児によるオープニングダンスを皮切りに、地元団体の各種ステージショー、ジャンボキジ鍋、びっくり市、魚のつかみ取り、きほく作品展などの催しを行った。また、ゲストに「愛媛プロレス」やお笑い芸人「モグライダー」、歌手の「島谷ひとみ」氏を迎え、会場内は大勢の人で賑わった。 今回は、合併20周年記念事業ということで、でちこんか発足時の「であい・ふれあい・まなびあい」という生涯学習の趣旨を反映し、ふれあい移動動物園やキッズ落書きコーナー、絵本の読み聞かせ会の他、国登録有形文化財「鬼北町庁舎」を開放し、庁舎見学ツアー、議場での鬼の造形作品展といった文化財、芸術に触れられる催しも充実させた。 【来場数】 前夜祭・・・約2,500人 当日・・・約22,500人 合計約25,000人	1	継続	今年のでちこんかには天候も恵まれ非常に多くの方が来場し大変盛り上がった。来年度も魅力ある鬼北町最大のイベントとなるようお願いしたい。

令和6年度

基本 施策	個別事業施策名	事業の目的	事業の内容	総合評価		
				判定	今後の 方向性	判定理由・課題・ 今後の対応等
心豊かで充実した人生を送るための生涯学習の推進	公民館活動推進事業	公民館を中心に、町民の学習・スポーツ活動への意欲を喚起する最新情報の収集、活動ニーズの把握、新たなメニューの開発、質の高い芸術・文化に触れる機会の創出など年代や地域に応じた多様な活動プログラムを提供するほか、自主的な学習活動の活性化、各協会など町民活動組織への支援に取り組む。	【地域行事、各種講座】 昨年度は、コロナ禍の影響による地域コミュニティの衰退により実施ができなかった地域行事があったが、今年度においては、地域住民の理解協力により、全地区で運動会、納涼大会等の地域行事を遂行することができた。各種講座、教室についても、地域住民のニーズを基に新たな講座の実施等に努め、生涯学習環境の向上を図った。 【図書室の利用促進】 中央公民館図書室では、毎月ケーブルテレビの「中央公民館図書室だより」への出演、町のホームページにて新着本の紹介を行い住民に図書室の利用の周知を図った。また、読書週間等に合わせた企画イベントの実施やクリスマスおはなし会等を開催し子どもの読書推進を啓発した。ブックスタート事業では、0歳児を持つ家庭を対象に絵本をプレゼントし、絵本を開く楽しい体験や絵本を通しての保護者との触れ合いなど、幼少期から本に親しむ習慣づくりの大切さを周知した。地区公民館では、地域住民の声を反映した図書室の運営に努め、図書の充実を図るとともに、地域住民の自主学習の場を提供した。 【公民館施設整備】 中央公民館高圧受電柱建替修繕工事、愛治公民館1階ロビーエアコン設置工事、愛治公民館屋上防水修繕工事 快適な環境づくり、住民が安心して活動できる公民館の施設整備に努めた。 【二十歳のつどい】 1月3日に二十歳のつどいを実施し、太鼓集団魁による演奏や担任教諭のビデオメッセージを作成して式典の中で披露し、社会人としての郷土愛の醸成に努めた。 【花いっぱい運動】 花いっぱい運動では、各公民館が地域団体と協力し、年間を通して管理に努めた。苗は、北宇和高校の生徒たちが育てたものを購入している。今年度は、マリーゴールド、ビオラを購入した。（年2回配布）	3	継続	公民館において、今まで長年行ってきた活動を今後も続けていくには地域に人材がいなくなり集まりにくくなっており続けていくのは難しくなっている。事業の中身の見直しが必要ではないか。 中央公民館図書室については、各種イベントを実施することで、利用者が読書に興味を持てるように配慮した活動ができている。

令和6年度

基本 施策	個別事業施策名	事業の目的	事 業 の 内 容	総合評価		
				判定	今後の 方向性	判定理由・課題・ 今後の対応等
学校・家庭・地域の 連携推進	学校・家庭・地域連 携推進事業	幅広い地域住民の 参画を得て、地域全 体で子供たちの学び や成長を支えるとと もに、学校を核とし た地域づくりを目指 す。また、放課後に 子供たちの安全・安 心な活動拠点を設 け、地域住民と交流 活動に取り組むこと で、心豊かで健やか に育まれる環境づく りを推進する。	平成28年度から町内すべての小中学校に地域学校協働本部を設置、学校・家庭・地域が連携・協働し、地域ボランティアの協力を得て、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を推進するとともに、この活動を推進する「地域学校協働本部」への支援に努めている。また、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動等、地域住民との交流活動に取り組む「放課後子ども教室」を、日吉地区（平成28年度～）、泉地区（平成29年度～）、好藤地区（平成30年度～）の3地区で実施し、放課後の子どもたちの安全で安心な居場所づくりを推進している。 【地域学校協働本部】 ・ボランティア年間延べ活動人数：19,914人 【放課後子ども教室】 ・実施教室：日吉地区、泉地区、好藤地区 ・登録児童68人（日吉地区20人、泉地区19人、好藤地区29人） ・教育活動サポーター数 51人（日吉地区18人、泉地区20人、好藤地区13人） 【本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等】 地域住民等の参画による学習支援や体験活動を通じ、児童生徒の自主性や学習意欲の向上を図る。 指標：総合的な学習の時間に、自分で課題を立てて情報を収集、整理して調べたことを発表する学習活動に取り組んでいる割合。 （全国学力・学習状況調査）目標値：40％ 実績値：43％	3	継続	サポーターの確保に苦慮していると聞いている。人材が少なくなってきた中で、今後どういった形で続けていくのか検討する必要がある。

令和6年度

基本 施策	個別事業施策名	事業の目的	事業の内容	総合評価		
				判定	今後の 方向性	判定理由・課題・ 今後の対応等
人権学習及び啓発活動の推進	人権教育推進事業	国の法律に基づく、正しい人権意識とお互いを尊重する心を育む学習を通して、あらゆる差別や不合理な社会矛盾の解消に努め、一人ひとりが個性と能力を発揮することのできる社会の実現を目指す。	あらゆる差別の解消を目指し、学校や地域における人権教育を中心に、町全体で命の大切さ、人権意識の高揚に努めた。また、いじめや差別をなくする意識啓発により、差別のない心豊かなまちづくりの推進に努めた。 【子どもたちのための人権集会】 月日：11月29日 講師：林家染太氏（落語家） 対象：町内中学生及び一般 計 約240人 中学時代に壮絶ないじめを乗り越えた経験や、落語を通して学んだ数々の教訓をもとに、人と人とのつながりの大切さや、周囲とコミュニケーションを取る方法などをご講演いただいた。「誰かを頼ること」「一人で悩まないこと」必ず誰かが味方になってくれることを忘れないでほしいという言葉が、中学生に届いていてほしい。後半は落語で場を和ましていただき、笑顔あふれる集会となった。 【人権を考える集い】 月日：2月8日 講師：辻井いつ子氏（ピアニスト辻井伸之氏の母） 対象：PTA会員及び一般 講師に、辻井いつ子さんをお招きして開催予定であったが、断続的に続いた降雪により、安全確保のため中止となった。 次年度、改めてお越しいただくようお願いしている。	2	継続	人権を考える集いについては中止となったが、子どもたちのための人権集会の講演は非常に意義であり評判も良かったと聞いている。 来年度も継続して事業を実施し、差別のない心豊かなまちづくりの推進につとめてほしい。
人権学習及び啓発活動の推進	シトラスリボン運動推進事業	シトラスリボン運動を展開することで、差別偏見なく、暮らしの中で「ただいま」「おかえり」と言いあえるまちづくりに繋げる。	コロナ禍で生まれた差別や偏見を無くすため、愛媛県発祥の「シトラスリボン運動」に賛同、学校や地域におけるいじめや差別をなくする意識啓発により、差別のない心豊かなまちづくりの推進に努めた。 【シトラスリボン運動】 町ホームページや公民館報にシトラスリボン運動の記事掲載及び町内各施設にポスターを掲示。令和5年の5月から感染症の位置付けが5類に下がったが、引き続き啓発活動を行った。	2	継続	コロナが収まってきており、今後こういった形で行うのか、他の感染症も含めた病気への理解、対策を考える方向に転換できれば良いのではないかな。

令和6年度

基本 施策	個別事業施策名	事業の目的	事業の内容	総合評価		
				判定	今後の 方向性	判定理由・課題・ 今後の対応等
地域に根ざした個性豊かな文化の振興	文化団体育成事業	地域に根ざした伝統文化や、新しい町民文化を創造し、ふるさとの心をはぐくむ文化風土の形成に寄与するため、文化協会の運営及び活動を展開する。	地域における芸術文化活動の核となる、芸術文化団体及び後継者を育成し、芸術文化活動の発展を図る一方、芸術鑑賞の機会の拡充を図った。文化協会では、広報紙を年に2回発行するとともに、今年度より町ホームページで各団体の活動内容を町内外に発信している。きほく作品展を広見体育センターで開催し、会員や保育所、小中高等学校生、老人クラブ、婦人会等の作品を展示し、住民に対して芸術作品鑑賞の場を提供することができた。きほく芸能祭りを5年振りに実施し、会員の日頃の練習の成果を発表する良い機会となった。 泉貨紙保存会では、今年度から泉貨紙を用いた商品開発のために旧小倉保育所を借りて、モノづくりに携わる団体等と協働し、泉貨紙の魅力を町外に発信する活動を行っている。町では団体が活動しやすいように旧小倉保育所の修繕等を行った。 鬼北文楽、富母里神楽保存会や五つ鹿踊り、花とび踊りなどの伝統文化については、祭りやイベント等を通じて継承活動に努めることができた。 ●年2回の会報紙「鬼北の文化」発行（9月：3,500部、3月：3,500部） ●きほく生花展、お茶会（10/5.6）来場者数325人 ●第20回きほく作品展（10/10～10/13）作品数547点、来場者数743人 ●第20回きほく芸能祭り（11/16）出演8団体、来場者数130人 ●鬼北山野草会による展示会 ○4/13.14 春の山野草展 ○6/1.2 山野草・山あじさい展 ○6/29.30 初夏の山野草展 ○10/19.20 秋の山野草展 ○12/7.8 新年を飾る山野草展 ●第73回秋季県展移動展鬼北会場（2/26～3/3）作品数76点、来場者数215人	1	継続	各団体とも、会員の高齢化により後継者不足の問題が生じている中、山野草展や芸能祭りなどを実施され頑張っており、今後の活動も期待している。 記録に残して次の世代に引き継ぐ必要がある。貴重な伝統文化を保存・継承を続けて頂きたい。

令和6年度

基本 施策	個別事業施策名	事業の目的	事業の内容	総合評価		
				判定	今後の 方向性	判定理由・課題・ 今後の対応等
地域に根ざした個性豊かな文化の振興	文化・文化財活用事業	町内の文化・文化財や文化施設を活用した講演会・シンポジウム・企画展・各種イベントなど、文化財保護啓発活動を実施し、地域活性化を推進する。	令和6年9月21日に一般供用を開始した奈良山等妙寺史跡公園・歴史交流館について、オープン記念としてこれまでとは次元の異なる利活用イベントを開催することで、交流人口の増加に寄与した。特に記念イベントの集大成として実施した「中世等妙寺・歴史体感パレード」及び関連イベントでは、幼児から高校生、ファミリー層等、史跡を核とした多世代交流機会となった（3月9日）。 ・出雲神楽、太鼓集団「魁」オープニングイベント（9月21日） ・ファミリー向けイベント「時の迷路と隠し絵で遊ぼう」（10月26日） ・記念講演会「いまよみがえる等妙寺旧境内-歴史考証イラスト制作秘話-」（10月26日） ・秋の朝修行イベント「トレッキングthe雲海」（10～12月） ・記念シンポジウム「国史跡等妙寺旧境内-歴史的価値とこれからの利活用を考える-」（12月21日） ・修行体験イベント（声明編）（12月22日） ・中世等妙寺・歴史体感パレード及び関連イベント（3月9日）、小学生を対象とした事前ワークショップ（2月） ・史跡の効果的な普及啓発のため紙芝居「理玉和尚さんと等妙寺（仮）」用イラスト10カット制作した。 ・史跡の認知拡大、新たなファン層、リピーター獲得に向けた委託によるオリジナルグッズ制作。次年度販売開始予定。 日吉明星ヶ丘では、鬼北町合併20周年記念事業として「鬼の里の夜神楽・ひよし星降るキャンドルナイト」を開催し、出雲神楽（島根県）が公演、県内外から多数の観客が訪れた。	2	継続	本年度オープンした奈良山等妙寺史跡公園・歴史交流館では様々なイベントを行うなどこれまでとは違う形での利活用イベントが開催でき、内容についてもとても良かったと聞いている。 また、ひよし星降るキャンドルナイトを開催するなど日吉明星ヶ丘を活用したイベントの実施などにより文化財活用が図られており、今後の更なる事業継続を期待している。
地域に根ざした個性豊かな文化の振興	文化財保護事業	鬼北町内の指定文化財を中心に、維持管理を行い、その保護を図る。また、町内の文化・文化財を地域資源として積極的な活用を図り、文化財保護意識の高揚と周知を図る。	○文化財保護委員会を年2回開催し、文化財事業の進捗状況や町内文化財の維持管理、町指定文化財の新規指定等について検討・審議を実施した（6・3月）。 ○町内文化財について、必要に応じて補助金を活用するなど円滑な保存修理や維持管理を行った。 ・奈良天満神社 拝殿屋根改修工事（鬼北町文化財保存伝承事業費補助金） ・吉波恵比寿神社 本殿改修工事（鬼北町文化財保存伝承事業費補助金） ○令和5年度所在が明らかとなり、町内でも最古級の中世期に遡る資料を含むことが判明した上鍵山日吉神社棟札について、町指定文化財新規指定に向けての調査・手続きを実施した（令和7年3月指定予定）。 ○文化財防火デー（1月26日）に合わせた防火訓練を国指定重要文化財「善光寺薬師堂」にて実施した。訓練を通じて文化財所有者、地域住民、地元消防団員の協力体制を再確認するとともに文化財保護と防火意識の向上を図ることができた。	2	継続	鬼北町には多くの神社や祠がある。貴重な地域の文化財産を守るため、引き続き調査を続けるとともに、文化財の価値や評価を広く公開・活用できるよう取組を進めていきたい。

基本 施策	個別事業施策名	事業の目的	事業の内容	総合評価		
				判定	今後の 方向性	判定理由・課題・ 今後の対応等
地域に根ざした個性豊かな文化の振興	町内遺跡発掘調査事業	地域の歴史や伝統文化を伝える遺跡等の町内の埋蔵文化財について調査を行い、町内の遺跡を把握することで、開発行為等による遺跡の消滅を防ぐとともに、開発と文化財保護が円滑に進むよう調整する。また、各遺跡の調査を進める中で、遺跡から情報を引き出し、その歴史的価値を明らかにし、地域への還元のための活用を推進する。	等妙寺旧境内では、等妙寺旧境内調査・整備検討委員会の指導のもと、令和元（2019）～4年（2022）度を実施した平坦部A-2（観音堂跡）、平坦部A-1（山王跡）の面的調査出土遺物の整理作業等、令和9年（2027）度の発掘調査報告書刊行に向けた作業を進めた。 町内重要遺跡では、令和9年（2027）度の発掘調査報告書刊行に向けての遺物整理作業を実施した。 町内遺跡詳細分布調査では、等妙寺旧境内に関連して奈良山山岳霊場・信仰遺跡を対象に実施し、有識者の指導のもと遺跡の把握、記録に努めた。平成29年（2017）度より実施してきた等妙寺尾根稜線上の調査成果については令和7年（2025）度に報告書作成を進め、令和8年（2026）度に刊行予定である。 また、埋蔵文化財包蔵地の照会にかかる現地確認のほか、町内山城についても有識者を招へいし、縄張り調査による積極的な把握及び既存データの更新を行った。	2	継続	これまで継続して行ってきた史跡等妙寺旧境内の発掘調査については、よく事業を実施している。今後も委員会の指導の下、イベントの実施や成果報告等を行いながら、事業を進めていただきたい。また、町内に存する埋蔵文化財包蔵地の調査についても、詳細の把握に引き続き努められたい。
地域に根ざした個性豊かな文化の振興	史跡等妙寺旧境内保存整備事業	国史跡等妙寺旧境内の恒久的な継承と利活用を目的に、等妙寺旧境内調査・整備検討委員会の指導のもと、保存管理計画・史跡保存整備構想・史跡保存整備基本計画に基づき、史跡地内の環境整備及び遺構の保存整備を推進する。	令和6年度の文化庁の国宝・重要文化財等整備・活用補助金の採択により展望場地区整備工事を実施し、これまでの史跡の保存整備事業及び第1期整備工事の総括を行うため、報告書の作成を行った。展望場地区整備工事では、災害復旧工事以来手をつけていなかった災害地先端部の法面処理を行うため、再測量と設計を実施したうえで設計図書を作成・発注し、11月に工事を開始した。雪の影響もあったが、年度内での完成を見込んでいる。これと併行して保存整備事業報告書をまとめ、3月末に発刊する。6月に文化庁調査官を招聘して今後の進め方について協議を行うとともに、9月に史跡公園オープンし、一般供用が開始され、現在までに1000名を超える来訪者があった。等妙寺旧境内調査・整備検討委員会は7月、3月に開催し、第Ⅰ期整備の総括について進めるとともに、令和7年度の保存活用計画作成に向けて検討を進めた。 このほか、4月17日に発生した地震の影響により石積みの一部に抜けが生じる被害や地表面に亀裂が入る被害があった。幸い大きな被害には至らなかったが、ガイダンス施設の基礎にクラックが発生し、樹脂注入による応急対策工事を実施した。また、平坦部A本坊客殿デッキに転落防止用の手摺の設置し、来訪者のための安全対策を行った。	2	継続	奈良山等妙寺史跡公園・歴史交流館がオープンし、町内外から多くの集客があったと聞いている。今後も新たな集客に期待する。 引き続き史跡公園の整備を図り、町民が気軽に訪れられる場所となり、利活用できるよう事業継続していただきたい。

基本 施策	個別事業施策名	事業の目的	事業の内容	総合評価		
				判定	今後の 方向性	判定理由・課題・ 今後の対応等
地域に根ざした個性豊かな文化の振興	井谷家住宅保存整備事業	国登録有形文化財「井谷家住宅」の保存継承を目的に、保存活用計画を検討し、建物の保存修理工及び整備・活用を推進する。景観計画の歴史景観地区に指定されている下鍵山幸田地区のまち並みを含めた活用を図ることで、明星が丘施設群・井谷家住宅を文化交流・観光の拠点として、整備・活用を推進することで地域活性化を図る。	国登録有形文化財「井谷家住宅」の保存継承を目的に、昨年度に保存活用計画を作成した。これに基づき、令和6年度は文化庁の国宝・重要文化財等整備・活用補助金の採択により井谷家住宅保存改修工事実施設計を進める予定であったが、住宅背後の斜面が土砂災害特別警戒区域（レッド・イエロー）に指定されていることから、斜面の安定化対策について検討が必要であった。このため、6月に文化庁・愛媛県と協議し、住宅の保存改修工事実施設計と併行して後背斜面の安定化対策にかかる調査解析設計を行うこととなり、11月に国庫補助の採択を受けた。 井谷家住宅保存改修工事実施設計は11月に契約締結し、設計のための基礎的調査を開始した。後背斜面調査解析設計業務は1月に契約締結し、業務を開始した。積雪の影響もあったが、地質調査等の基礎的データの調査や工法の選定等に時間要することから、工期を延長して次年度へと繰越すことを予定している。なお、各事業の中間報告として3月に井谷家住宅保存活用検討委員会を開催した。	3	継続	貴重な地域の文化財産を守るため、引き続き調査を続けるとともに、文化財の価値や評価を広く公開・活用できるよう取組を進めていただきたい。 雨漏り等が発生している井谷家住宅については、早急に改修を進めていただきたい。
地域に根ざした個性豊かな文化の振興	文化財保存活用地域計画作成事業	第2次鬼北町長期総合計画（平成28年度策定）後期基本計画（令和2年度策定、令和3-7年度第2期総合戦略）を踏まえ、地域の文化財及びその周辺を総合的に保存・活用等を図るとともに、地域の文化財の防災・防犯体制、防災方針等を確立するため、3か年計画で鬼北町文化財保存活用地域計画を作成する。（文化庁認定申請令和7年12月予定）	第2次鬼北町長期総合計画（平成28年度策定）後期基本計画（令和2年度策定、令和3-7年度第2期総合戦略）を踏まえ、地域の文化財及びその周辺を総合的に保存・活用等を図るとともに、地域の文化財の防災・防犯体制、防災方針等を確立するため、3か年計画で鬼北町文化財保存活用地域計画を作成する。（文化庁認定申請令和7年12月予定） 令和6年度は、建造物調査を進めるとともに文化財・自然的・地理的環境、歴史的環境、社会的環境等の町の概要をまとめ、地域計画素案の執筆・作成を進めた。また、3月に文化庁協議や地域計画作成協議会を開催し、認定に向けた協議を進めた。しかし、十分な協議ができておらず、策定までに至っていないことから、12月の文化庁認定を目指し、引き続き協議を進めていく予定である。	2	継続	地域の文化財の保存・活用を進めるための計画作成ということで、大切な事業である。3か年の事業で文化庁の認定を目指して引き続きしっかりと進めていただきたい。

基本 施策	個別事業施策名	事業の目的	事業の内容	総合評価		
				判定	今後の 方向性	判定理由・課題・ 今後の対応等
町民総参加のスポーツ・レクリエーション活動の推進	生涯スポーツ振興事業	健康の保持増進、体力の向上を図り、快適な生活を営むため、健康教育の推進と町民総参加のスポーツ・レクリエーションの推進を図ると共に、総合型地域スポーツクラブの充実に努め、町民の積極的参加を促す。	【スポーツ協会】 ・組織の充実を図るため、指導及び助言を行い、団体育成補助金を交付した。 ・ナイターソフトボール大会の開催と運営をソフトボール協会と共同で行い、最後まで大会を開催及び運営することができた。（12チーム参加） 【スポーツ少年団】 ・組織の充実を図るため、指導及び助言を行い、団体育成補助金を交付した。 ・各少年団で事業を実施した際には、町スポーツ少年団から事業費補助金を交付した。 ・鬼北ジュニアが県大会で優勝し全国大会へ出場するため、補助金を交付した。 ・各団体とも様々な大会に参加し、日ごろの練習の成果を発揮された。 【総合型スポーツクラブ】 ・スポーツ教室の開催と運営は、鬼北町スポーツ協会に委託し、火・木は昼に、金・日は夜に実施、年間120回以上開催している。 ・活動種目は、レクバレー、卓球、バドミントン、ラケットテニス、陸上。 【鬼街道駅伝競走大会及びマラソン大会】 ・第18回鬼街道駅伝競走大会及びマラソン大会を1月12日に開催した。駅伝の部19チーム、マラソンの部96人の参加があった。駅伝は昨年度よりチーム数が減り、雪の心配もされたが無事に終了できたとともに、大会新記録や各区間で区間新記録も更新され昨年度に劣らずの盛り上がりを見せた。マラソンについては、参加人数は増加したが参加部門に多少のバラつきはあった。それでも沿道での応援を受けながら全員がゴールを目指して全力で走っていた。	2	継続	各団体の人数が減ってきており、今後の維持も大変なところであるが、引き続き頑張っ取り組んでももらいたい。 鬼街道駅伝競走大会では参加チームが少なかったように思われるので、町民が積極的に参加されるよう周知を図られたい。
町民総参加のスポーツ・レクリエーション活動の推進	体育施設整備事業	施設設備を改修し、学習・スポーツ環境の向上を図り、総合型地域スポーツクラブを中心とした幅広い分野の交流による学習・スポーツ活動の活性化に努める。	【町内社会体育施設の修繕の実施】 ・農林業者トレーニングセンター 通路照明取替 ・西仲広場給水管漏水修繕 ・近永小第2グラウンド、三島グラウンド、日吉農村広場の清掃管理委託事業による環境整備の実施 ・近永小第2グラウンド夜間照明改修（LED化）	2	継続	近永第2グラウンド夜間照明がLED照明に改修されるなど、各社会体育施設の修繕が図られている。施設の老朽化により今後も修繕箇所が出てくるので、現地を調べて適宜修繕をお願いしたい。

令和6年度

基本 施策	個別事業施策名	事業の目的	事業の内容	総合評価		
				判定	今後の 方向性	判定理由・課題・ 今後の対応等
町民総参加のスポーツ・レクリエーション活動の推進	B & G海洋センター運営事業	海洋性スポーツを軸とした実践活動を通して、海事思想の普及を図るとともに、その人間性と体力向上を図ることを目的とする。	本年度は、5月5日～9月15日までの営業とした。1件事故が発生したが、迅速に対応できたこともあり大事にならなかった。その他は何事もなく、最後まで営業することができた。 海洋クラブ活動については、積極的に県の交流会や事業に参加することができた。また、鬼北町で開催された前期交流会では2日目に等妙寺歴史交流館へ行き、今年度からの必須事業である「郷土教育の学習や体験」を実施した。交流館での学習を始め、当時昔の人が歩いていた道を説明を受けながら歩いた。県内の子どもたちに鬼北町の歴史を知ってもらうことができた。 その他にも、水中運動教室やおたまじゃくし水泳教室も実施した。三島、泉、好藤小学校の子供たちにカヌー教室や水辺の安全教室を実施した。子どもたちにも水で遊ぶ楽しさもあるなかで溺れてしまうなどの危険があるなど、水の「怖さ」があることを教えることができた。 また、今年度もセンター評価「特A」をいただくことができた。 【B&G海洋センター】 ・利用者人数 3,224人（内訳：大人1,039人、大人障がい26人、小人1,520人、小人障がい26人、幼児277人、見学336人） ・おたまじゃくし教室7回開催（19人）、水中運動教室7回開催（56人） 【海洋クラブ】（会員7人） ・海洋性スポーツ実技（カヌー、ロープワーク） ・県内の前期交流会（自然体験活動）と後期交流会（スキー研修）に参加 ・水辺の安全教室（紙芝居、だるま浮き） ・愛南町との交流会（愛南町主催事業：トレッキングザ空海に参加） ・四国ブロック自然体験交流会に参加	2	継続	B&G財団の評価を10年以上「特A」受けていることは適切な施設管理及び多種多様な活動が行われていると思われる。引き続き利用者拡大に努めていただきたい。 施設の老朽化が激しいため、温水化を含めたプールの整備を進めていただきたい。
鬼北総合公園の利用促進	鬼北総合公園の利用促進事業	町民をはじめ、圏域住民の憩いの場、スポーツ・レクリエーション活動の拠点として、鬼北総合公園の利用促進を図るとともに、指定管理者と連携し、なお一層の施設設備の充実に努める。	鬼北総合公園は、地域の交流を図り、スポーツ・レクリエーション及び自然と触れ合う憩いの場を整備し、子供から高齢者までの全年齢が気軽に利用できる公園づくりを目的として、平成元年に事業認可を受け、平成16年4月、現在の公園面積13.8haが供用開始となった。 平成31年4月1日、所管が宇和島地区広域事務組合から鬼北町へ移管、鬼北町スポーツ協会が施設管理を行い、より地域に根差した都市公園を目指している。 新型コロナウイルス感染症の影響により一時施設を閉館していた時期もあったが、令和5年5月から感染症の位置付けが5類に移行されたことに伴い、アリーナや体育館等使用者が増えてきた。現在リフレッシュ広場に遊具の更新工事（1基）を進めており、令和7年6月下旬までに工事完了を見込んでいる。	2	継続	本年度、町内外各団体による鬼北総合公園体育館の利用が増加し、土日もほぼ予約で埋まった。地域の人や行事ができるだけ使えるように早めの申込みを促されたい。 また、遊具の整備に伴い休日に鬼北総合公園を訪れる方が増加した。休憩所を整備するなど更なる公園整備を図り利用促進を図られたい。